

東京バッハ合唱団 月報

[第 631 号] 2015 年 1 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604
Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 631

January 2015

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

2014～2015 年の多忙なクリスマスと新年

大村 恵美子 (主宰者)

2014 年

- 12 月 9 日 111 定演リハーサル①
- 12 月 12 日 111 定演リハーサル②
- 12 月 13 日 111 定演リハーサル③、本番
第 111 回定期演奏会
(府中の森芸術劇場ウィーンホール)
- 12 月 20 日 荻窪教会クリスマス・コンサート
(111 定演のプログラムによる)

2015 年

- 1 月 10 日 新年初練習 (荻窪教会)
練習後、団員によるミニコンサート
その後、新年会 (「香酒縁」荻窪駅近く)

東京バッハ合唱団では、毎年一番長い休暇は、12 月の定期演奏会後から 1 月の初練習までの冬休みです。今回は、13 日で定演は終わりましたが、その 1 週間後には、荻窪教会でのクリスマス・コンサートがあり、冬休みは 12 月 21 日～1 月 9 日の 20 日間となりました。

111 定演の 4 曲のうち 3 曲を内容とするのが、20 日のコンサートでしたが、最近野尻湖で 2 回ほど試みた形、つまり独唱用の曲は団員の各パートの斉唱にして、1 つのカンタータを省略なしに全曲演奏するという冒険的な演奏法にしたので、団員としては重い責任が加わりました。これには賛否両意見がありましようが、合唱だけの 1、2 曲を練習して、楽譜をしまいこんでしまうよりも、ずっと音楽全体に親しむことができるのは確かで、半世紀も歌ってきた実績に免じて、これからは引き続きおゆるしいただこうと思っています。

* * *

12 月 20 日 荻窪教会クリスマス・コンサート

12 月 13 日の定期演奏会では、広いステージでフルオーケストラ、大パイプオルガンと共に、朗々と歌われた 4 人のソリストの独唱曲が、今回はすべて合唱団員の斉唱で全曲歌われ、時間の都合上カンタータ第 36 番《喜びのぼれ》だけが省略されました。楽器は、ヴァイオリン (坂田和泉さん。定演のコンサートマスター。この日も見事なソロをご披露)、チェロ (橋本しのぶさん。オケのご常連)、オルガン (石川優歌さん。芸大オルガン専攻在学中) をお願いしたのですが、これだけでも終始、声と楽器とがぴったりと絡み合っ

なめらかで優美な時が流れてゆきました。

定演の日は、会場使用のくじ引きで夜の時間帯だけしかとれなかったもので、ステージ練習はほとんど出来ず、荻窪教会で午後リハーサルをすませて、府中へ移動して来たのでした。そのように極度にタイトなスケジュールで、休憩時間の楽譜・CD 等の販売も不消化に終わりましたが、この 20 日には、お客様との接点をふやすように、休憩を挟んで、グッズの売れ行きも倍加し、知人同士の会話もできました。アンコール代わりのコラール「いざ来りませ 世の救い主」の全員合唱も、たっぷりと効を奏して、ご満足いただけたようでした。

* * *

私と大村健二は、その後 12 月 24、25、26 日に、4 か年をついやした創立 50 周年の全てのイベントが、このように全うされたことのお賞めとして、団員の方々から 3 日間の九州旅行をプレゼントされ、南九州地方を訪問させていただきました。日本国の淵源を探る意義深い機会となりました。こんな具合に、2014 年は、天、地、人すべてに対する感謝に明け暮れ、一番不安を感じていたインフルエンザの猛威も避けられて、20 日の最終行事の後の打ち上げには、30 数名ものメンバーが、美酒美食に酔いしれて別れたのでした。

新年の目標は、すでに既定方針となっている「3・11 被災地訪問演奏」にしっかりとフォーカスされており、この大感謝の勢いをそのまま、第一歩からおし進めてゆけばいいです。

* * *

あらたに真白な気持ちで新年に踏み入ろうとしたのも束の間、また今年もおろかな殺し合いが世界中に



■クリスマス・コンサート (2014 年 12 月 20 日・荻窪教会)
写真: 千葉光雄氏

まき起こりました。またか! と人類の愚かさに肩を落しそうですが、今こそ、どこにも敵を作らない、他国にも攻め込まない、地球上の自然に対しても人為ミスを繰り返さない、すべては仲よく、仲よく、の一年に徹してゆきたい。そのためには、ただ何でも一つおぼえに歌っていればよいだけではなく、自国の為政者にも目をこらして、過去の人倫をはずれた道に二度と迷い込まないよう、決然と抗議してゆくのも、歌う以上に私たちの務めなのです。心をこめて、平和を地道に築いてゆきましょう。

第 111 回定期演奏会

3.11 被災地へ贈る、 バッハのクリスマス音楽の花束

2014 年 12 月 13 日 (土)
府中の森芸術劇場ウィーンホール

幸福感に胸いっぱい

三谷啓文 (平和運動事務局スタッフ)

このたびは、お招きいただきまして、ありがとうございました。すばらしいバッハのクリスマス音楽に浸ることができ、感激しております。バッハの音楽にはまったく素人の私にとって、はじめてきく曲ばかりでしたが、本当に素敵なおとときでした。

受難曲やオラトリオほどのドラマ性やダイナミズムがあるわけではありませんのに、質素な楽器編成で、とても清楚な味わいを楽しませていただきました。「忍び」「耐え」て後の希望の明日を待ち、そして祝う。日本語演奏のおかげで、またバッハに、より近づくことができましたと思います。

特にカンタータ 36 番の第 2 曲、コラール二重唱「いざ来たりませ」(S/A) はやさしく気品があり、また、

おだやかで堅実なひびきのオーボエをともなった第 3 曲のテノール・アリア「やさしく愛は誘(いざの)う」も心に浸ってきました。そしてコラールでのぼりつめていく幸福感に胸いっぱいになりました。

小編成ならではの息のあったアンサンブルと誠実な歌声をきかせてくださった合唱団、独唱者のみなさん、そして、私たちにバッハのクリスマス音楽をプレゼントして下さった大村先生にお礼申しあげます。

戦争の暗雲がたれ込める中、本日いただいた感動をまたひとつの糧として、しっかり歩いていきたいと思えます。南相馬公演の成功と、大村恵美子先生の変わらぬご活躍を心から願っております。本日はありがとうございました。

会場アンケートより

<演奏全般>

- ・安らかな気持ちになりました。
- ・常に、難曲であるバッハにチャレンジされて大変立派だと思います。少人数でも、音量充分によく出ていました。
- ・大変良かったです。
- ・日本語でバッハの音楽を伝えようと努力してこられた姿勢に敬意を表します。
- ・前 2 回の受難曲と違って、ゆったりとした気分で聞けた。場所も良い。
- ・合唱の人数が少ない割に声がよく響いていました。

<日本語演奏>

- ・よく聞きとれないところがありました。
- ・せっかく日本語で歌っても、歌詞(コトバ)はほとんど聴こえてこない。また現代語ではないので更に分かりにくかった(文字で見れば分かりやすいのかも知れません)。演奏の立場では、原語のほうが音を取り、歌いやすいとしたら、あまり日本語演奏の価値がない

ような気もしました。[※事務局よりお答えします。次ページ]

- ・大変わかりやすかった。
- ・生(ナマ)で聴いたらもっと日本語がわかるかと思いましたが、歌詞を目で追わないと理解できなかった。もちろん、独語で歌われても訳を見なければ分からないが、アンサンブルは少人数編成だが、良く音が出、ハーモニーしていた。
- ・今日は、とくに日本語を気にしないで聞けた。
- ・発音のよい人は分かりやすく、聞きとりにくいソロもありました。



<運営全般>

・開演5分くらいに到着したのですが、入り口より手前から追い立てるように場内に入れようとされましたが、曲間に入るわけであり、コートをぬいだり、音を出さない準備もできず、少々受付として良くなかったと思います（もっと後半でも入場させていたので、タイミングでは沢山あったはず）

- ・ゆったりと聞くことができた。
- ・自分の演奏外るとき、腕を組んだりしていた人が気になりました。小品で、全体に短かったのですが、それなりに楽しめました。会場が人数とマッチしていて声がよく聞こえました。

[※事務局よりお答えします]

日本語演奏についての一つの考え方

私どもの日本語演奏の理念に関しては、主宰者の考え方が、ホームページ上の「訳詞演奏の意義」(*)に、創設いらいほぼ10年おきの感懐として述べられていますので、ぜひご参照ください。また、公演チラシの裏面にも、毎回「バッハ演奏、なぜ日本語か？」として、簡略ながら表明しています。後者を要約すれば、①母語である日本語で歌い・聴くことによって、外国語という壁を超えることができる。②この試みは、バッハの精神的背景である、神と直接向き合おうとするルターの改革思想に通底する。③バッハ音楽そのものが、単語の意味やテキストの思想・情調等を具現化しているの、特定の言語の制約を脱しやすい。

①の実践の要諦は、「聞き取りやすく歌う」に尽きません。日常の発話の所作を超えて、声楽的な筋肉運動が求められますが、なかなか至難。声楽家の方々が、日本語演奏に違和感を感じるのは当然でしょう。が、日本語かドイツ語か、という択一の問題ではなく、母胎にあるときから耳にし、ここに直結している「母語」か外国語か、という選択です。

ぜひ、プログラムの歌詞を見ながら聴いていただきたいものです。当時のライブツィヒの年代誌家の次のような記録が残されています。「さてこの多声音楽を…聴きとるためには、それゆえ長い期間と手間が費やされるのが常であって、カントル氏は音楽の台本を「教会音楽」(キルヒェン・ムジーク)の表題のもとにあらかじめ印刷に付させ、各人がこの台本を手にして、歌われる歌詞を追って理解できるよう配慮したのであった」(「新ライブツィヒ年代誌」続II、1717年、ギュンター・シュティラー『バッハとライブツィヒの教会生活』杉山好訳、白水社バッハ叢書7、p.166)。「カントル氏」…バッハ氏就任の数年前の記録です。

*) : http://bachchor-tokyo.jp/japanese_meaning/index.htm

新年ミニコンサート

高濱朗子 (団員、ソプラノ)

1月10日、今年最初の荻窪教会での練習後、下記プログラムで団員によるミニコンサートが開催されました。

- ① 村山英司さん (T) : シュテルツェル作曲、J. S. Bach 編曲「アンナ・マグダレーナ・バッハの音楽帳から《あなたがそばにいたら》」
- ② 久保庭重夫さん (B) : Jean Paul E. Martini 作曲「愛の喜び」
- ③ 宮城幸義さん (T)、白井均さん (B) のリコーダー、風岡和子さん (A) のフルート、岡山光さん (S)、松尾重春さん (B) のチェロ : J. S. Bach 作曲「カンタータ第81番 No.1 アルト・アリア《主イエス眠りいかにすべきわが望み》」
- ④ 川合満里子さん (S) : Adolphe C. Adam 作曲「O Holy Night (聖らに星すむ今宵)」
- ⑤ 加藤剛男さん (B) : French Traditional Carol 「生けるものすべて」(賛美歌100番)
- ⑥ 小海基さん (T) : J. S. Bach 作曲「カンタータ第82番 No.1 バス・アリア《われ満ち足れり》」
- ⑦ 小阪友紀子さん (ピアニスト、練習伴奏者) : ピアノ独奏 F. Chopin 「華麗なる大円舞曲 作品18」(Grande Valse brillante Op.18)
- ⑧ 全員合唱 : J. S. Bach 作曲「モテット第3番 No.1 《イエス よろこび》」

皆さんの歌声、音色、馴染み深い曲、初めて聴く曲、すべて心に沁み、楽しませていただきました。皆さん本当に多才ですね。音楽への造詣の深さと情熱に、あらためて敬服いたしました。

皆さん素晴らしかったのですが、特に独唱で紅一点の川合さんの歌が素敵でした。伴奏用の電子ピアノで素晴らしいショパンを聴かせて下さった小坂さん、ご自分のフルート演奏だけでなく、ピアノとオルガンで全声楽曲の伴奏を担当された風岡さん、司会の荒井さん、ありがとうございました！

最後に全員合唱で8月に歌うモテット3番の《イエスよろこび》を歌えたことも新しい年のスタートに相応しく、清々しい気持ちになりました。

第111回定期演奏会 ライブ録音/録画のご案内

(聴衆参加のアンコール合唱も)

- CD (2枚組) …2700円
- DVD ……3000円
- Blu-ray ……3500円

すべて内部価格・税込。送料は別途(メール便)。プログラム付き



「目からうろこ…」で、入団しました

林 貞敬 (団員、テノール)

何回か、コンサートを聴かせていただいております。「合唱と聖書朗読による《ヨハネ受難曲》」(荻窪教会、2014年4月)では、朗読に参加させていただきました。

12月のクリスマス・コンサートを聴かせていただいた時、会場で販売していた50周年記念連続演奏の《クリスマス・オラトリオ》と《マタイ受難曲》のCDも購入しました。これを聴くまでは、ドイツ語の著名な演奏家のものでも、いちいち歌詞カードを見て、今、何を歌っているのか確認しなければならず、いやになっていました。

ところが、東京バッハ合唱団のCDを聴くと、歌詞が分かるではないですか!! 「目からうろこ…」でした。CDの音の良さ(合唱団・オーケストラ・ソリスト等)と合わせて、たいへん感激しました。

その後、HPを拝見し、大村恵美子先生の訳詞の主旨を読ませていただき、納得いたしました。小海基先生にすすめられていたこともあり、入団を希望させていただきました。当方、少々譜面が見えにくくなっている年令ですが、よろしく願いいたします。

// 南相馬公演、いよいよ始動 //

年明けより、8月の第112回定期演奏会(被災地訪問演奏・南相馬公演)のための音取り練習が始まっています。

企画については、われわれの住む地域の自治体も関心を寄せてくださり、合唱団の設立地であり、事務局の所在する世田谷区(保坂展人区長は当合唱団団友)と、3.11直後から南相馬市への支援に駆けつけている杉並区(田中良区長。ここは現練習場の荻窪教会が所在)とが、後援団体に名をつらねてくださった。各広報部門での支援が期待されます。

合唱ツアーの参加者を募集しています

南相馬公演では、バッハのカンタータ2曲とモテットを日本語で歌います。われわれの魂そのものである母語によって、聴き手のこころの奥深くへ、バッハの生きたメッセージをお伝えしましょう。みなさまのご参加とご同行をお待ちします。

◆ツアー概要(詳細計画は策定中)

2015年8月21日(金)~22日(土)(1泊2日)

[1日目] 早朝ツアー本隊移動(都内⇒南相馬、チャーターバス)。被災地を知る(市内・海岸)、現地の方々との交歓会、宿泊先へ。[2日目] 午前会場準備、リハーサル。午後本番。帰京(南相馬⇒都内)。

◆ツアー代金見込み

参加費(公演費用、企画経費などの分担金) 一人 35,000円

前後、および個人経費(交通・宿泊・食費など) 一人 20,000円前後を見込んでいます(金額確定は2015年4月を予定。代金納入は分納も可、4月頃より)。

◆練習日程/会場(都内2か所、土・月、いずれにも参加可)

[土曜日] 荻窪教会(日本キリスト教団) 15:30~17:30。
(JR/地下鉄「荻窪駅」下車、南口より徒歩8分。都立荻窪高校の東南側。〒167-0051 杉並区荻窪4-2-10)

[月曜日] 目白聖公会 18:30~20:30(月曜日が祭日にあたる場合の練習は休み。JR「目白駅」下車、徒歩5分・目白通り沿い。〒161-0033 新宿区下落合3-19-4)

◆入団金/団費月額

練習参加と本番出演には、入団の手続きが必要です。ツアー代金とは別に、入団金3,000円、団費5,000円(月額)をお納めいただきます。

◆募集人数と締め切り

ツアー合唱団員は、全体で50名前後を想定しています。そのうち、新規の募集定員は、各声部とも5~10名前後の予定。一次締め切り:2015年2月28日。定員に余裕があれば、二次締め切りを、3月31日とします。定員に達し次第、締め切ります。

◆お申込み・お問い合わせ

東京バッハ合唱団事務局:電話 03-3290-5731、ファックス 03-3290-5732、メール office@bachchor-tokyo.jp
参加に、資格や経験は問いません。

【募集要項】ご請求ください。

東京バッハ合唱団 3.11 被災地訪問演奏

<福島県・南相馬公演>

—第112回定期演奏会—

<日時・会場>

2015年8月22日(土) 開演 13:30
南相馬市民文化会館「ゆめはっと」大ホール

<プログラム>

- ・カンタータ第92番《わが心 思い 神にゆだねたり》
- ・(賛助演奏)「花は咲く」「大切なふるさと」「故郷」
- ・カンタータ第81番《主イエス眠り いかになすべきわが望み》
- ・モテット《イエス よろこび》

<出演>

[ソプラノ] 光野孝子、[アルト] 佐々木まり子
[テノール] 鏡 貴之、[バス] 山本悠尋
[室内楽] 東京カンタータ室内管弦楽団
[オルガン] 石川優歌

[賛助出演] そうま地方合唱を楽しむ会合唱団

[合唱] 東京バッハ合唱団

[指揮/訳詞] 大村恵美子

<入場料>

前売り 1000円(当日 1200円、全席自由。事務局取扱い)

<後援>

ドイツ連邦共和国大使館、世田谷区、杉並区、公益財団法人南相馬市文化振興財団、福島民報社(予定)、福島民友新聞(予定)

<協力>

そうま地方合唱を楽しむ会合唱団、福島の子どもたちとともに・世田谷の会